



2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年10月29日

上場会社名 株式会社カプコン 上場取引所 東
コード番号 9697 URL <https://www.capcom.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 辻本 春弘
問合せ先責任者 (役職名) 財務経理部長 (氏名) 高見 啓太 (TEL) 06(6920)3605
半期報告書提出予定日 2025年10月30日 配当支払開始予定日 2025年11月17日
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2025年4月1日～2025年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	81,152	43.9	39,333	89.8	36,543	76.5	27,514	80.1
2025年3月期中間期	56,402	△24.7	20,726	△38.7	20,706	△42.7	15,275	△39.6

(注) 包括利益 2026年3月期中間期 28,152百万円(117.4%) 2025年3月期中間期 12,952百万円(△56.5%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	65.78	65.77
2025年3月期中間期	36.52	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	298,852	245,188	82.0
2025年3月期	312,982	226,303	72.3

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 244,933百万円 2025年3月期 226,148百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	18.00	—	22.00	40.00
2026年3月期	—	20.00			
2026年3月期(予想)			—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	190,000	12.0	73,000	11.0	70,000	6.6	51,000	121.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	533, 011, 246株	2025年3月期	533, 011, 246株
2026年3月期中間期	114, 725, 122株	2025年3月期	114, 743, 194株
2026年3月期中間期	418, 280, 521株	2025年3月期中間期	418, 246, 776株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

(注) 期末自己株式数および期中平均株式数 (中間期) の算定上控除する自己株式数には、「株式付与ESOP信託口」が保有する当社株式が含まれております。

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(中間連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報等の注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におきまして、当社グループは、グローバル市場においてさらなる進化と拡大を図るため、デジタル販売の継続的な強化を主軸とした成長投資を積極的に推し進めました。また、当社グループの最優先課題の一つである人材投資戦略について、安定的、持続的な成長のため、将来を支える人材の確保と育成に向けた人的資本への投資を継続し、中長期的な企業価値向上を図りました。

事業の状況につきましては、中核事業であるデジタルコンテンツ事業において、新型ゲーム機向け移植タイトルの発売やリピータタイトルの販売強化により、グローバルに販売本数の増加を図りました。これにより、当中間連結会計期間におけるデジタルコンテンツ事業は、246タイトルを231の国や地域に販売し、販売本数は2,385万本と前年同期2,002万本を上回り、業績向上に寄与しました。

また、当社グループの主力コンテンツとeスポーツ・映像・キャラクタービジネスとの連携によるIPの持つブランド力の向上に努めました。加えて、アミューズメント施設事業における堅実な店舗運営や積極的な新業態店舗の推進、アミューズメント機器事業におけるスマートパチスロの継続投入や当社グループの人気IP活用等の施策により、収益の向上を図りました。

このほか、当社グループは、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）において、大阪府・市などが出展した「大阪ヘルスケアパビリオン」への協賛、参加等により、地域・文化・技術の振興に努めてまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は811億52百万円（前年同期比43.9%増）、営業利益は393億33百万円（前年同期比89.8%増）、経常利益は365億43百万円（前年同期比76.5%増）、親会社株主に帰属する中間純利益は275億14百万円（前年同期比80.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① デジタルコンテンツ事業

当事業におきましては、5月に『カプコンファイティングコレクション 2』（Nintendo Switch、プレイステーション 4、Xbox One、パソコン用）および『鬼武者2』（プレイステーション 4、Nintendo Switch、Xbox One、パソコン用）を発売し、シリーズファンを中心とした根強い支持を集めました。加えて、6月にNintendo Switch 2 向けに『ストリートファイター6』および『祇（くにつがみ）：Path of the Goddess』を発売しました。

リピータタイトルにおいては、『ストリートファイター6』について、新型ゲーム機への展開に加え、引き続きeスポーツ展開との連携等によるブランド認知とユーザー数の拡大を推し進めたことなどにより、累計販売本数が全世界で500万本を突破しました。また、主力シリーズ「バイオハザード」の最新作『バイオハザード レクイエム』の来年2月発売を発表し、今年8月にドイツで開催された「gamescom 2025」の欧州最大級のゲームアワード「gamescom award 2025」において同タイトルが最多受賞の4冠を達成するなど、ユーザーの期待が高まる中、『バイオハザード ヴィレッジ』および『バイオハザード RE:4』をはじめとした同シリーズタイトルの販売が続伸しました。加えて、『デビル メイ クライ 5』も、映像作品の公開に合わせた価格施策や、IPの認知拡大によるブランド価値向上を図ったことにより好調に推移したほか、今年2月発売のシリーズ最新作『モンスターハンターワイルズ』の販売に伴い、同シリーズの過去作『モンスターハンターライズ』が引き続き販売本数を伸ばすなど、リピータタイトルの販売本数は2,285万本と前年同期1,895万本を上回りました。

また、9月に開催された「東京ゲームショウ2025」において、今後発売予定のタイトル試遊などを中心とした当社出展ブースが活況を呈しました。さらに、併せて発表された「日本ゲーム大賞2025」において、『モンスターハンターワイルズ』が年間作品部門で「優秀賞」を受賞するとともに、今期発売を発表の『バイオハザード レクイエム』および『モンスターハンターストーリー3 〜運命の双竜〜』をはじめとする4作品がフューチャー部門で選出され、今後のタイトル販売に弾みをつけました。

この結果、売上高は498億52百万円（前年同期比25.3%増）、営業利益は313億78百万円（前年同期比52.0%増）となりました。

② アミューズメント施設事業

当事業におきましては、インバウンド需要の増加に加え、ユーザーの消費行動に変化が見られる状況下、引き続き既存店の堅実な店舗運営や新業態での出店効果などにより、収益拡大に貢献しました。また、各店舗におけるイベント実施等により、リアル店舗の魅力の最大化と他事業とのシナジー効果の創出を推進しました。

当中間連結会計期間において、4月に総合キャラクターグッズ専門店「キャラカブ」とカプセルトイ専門店「カプセルラボ」を併設した「キャラカブ/カプセルラボ ららぽーと安城店」（愛知県）、当社人気キャラクターグッズの物販店「カプコンストアセンダイ」（宮城県）をオープンしました。また、6月に「プラサカプコン/カプセルラボ ららテラス北綾瀬店」（東京都）を出店するとともに、7月には当社の最新情報を体験できる「DIVE！CAPCOM」をはじめ、「キャラカブ」や「カプセルラボ」を併設した体感型施設「CAPCOM CONNECT SPACE（カプコンコネクトスペース）」（大阪府）をオープンするなど、合計4店舗を出店しましたので、施設数は57店舗となっております。

この結果、売上高は124億50百万円（前年同期比13.3%増）、営業利益は20億19百万円（前年同期比21.1%増）となりました。

③ アミューズメント機器事業

当事業におきましては、スマートパチスロを中心に市場が堅調に推移している環境下、6月稼働の新機種スマスロ『デビル メイ クライ 5 スタイリッシュトライブ』を11千台販売するとともに、10月6日稼働開始の新機種スマスロ『新鬼武者3』を18.2千台出荷し、収益に貢献しました。

また、昨年11月稼働のスマスロ『モンスターハンターライズ』および今年3月稼働のスマスロ『バイオハザード5』がプレイヤーからの高評価による長期稼働を受け、リピート販売も好調に推移しました。

この結果、売上高は151億91百万円（前年同期比378.3%増）、営業利益は90億78百万円（前年同期比471.9%増）となりました。

④ その他事業

その他事業につきましては、eスポーツビジネスにおいて、人気タイトル『ストリートファイター6』を用いた「CAPCOM Pro Tour 2025」を5月から世界各地で開催するとともに、国内でのチームリーグ戦「ストリートファイターリーグ：Pro-JP 2025」を8月から開催するなど、各大会において熱戦が繰り広げられました。また、2025年シーズンにおいても、各大会の決勝大会について、昨シーズンに活況を呈した両国国技館での開催を決定したことに加え、グローバル規模でのユーザー層の裾野拡大に向けた施策を実施しました。

映像ビジネスにおいては、Netflixの新作アニメ『Devil May Cry』が4月に全世界で配信されました。加えて、キャラクタービジネスにおいて、人気タイトル等のキャラクターグッズや各種イベント展開などに注力しました。さらに、当社ゲーム開発のプロセス等を展示した「大カプコン展 ―世界を魅了するゲームクリエイション」が大阪を皮切りに各地で開催され好評を博すなど、コーポレートブランドの価値向上に向けた施策を講じました。

この結果、売上高は36億57百万円（前年同期比48.7%増）、営業利益は20億80百万円（前年同期比74.0%増）となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ141億30百万円減少し、2,988億52百万円となりました。主な増加は、投資有価証券の増加等により「投資その他の資産その他」147億90百万円、「ゲームソフト仕掛品」133億32百万円、土地の増加等により「有形固定資産その他（純額）」89億45百万円、「仕掛品」52億24百万円であり、主な減少は、「現金及び預金」360億47百万円および「売掛金」184億6百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ330億14百万円減少し、536億64百万円となりました。主な減少は、「繰延収益」140億93百万円、「賞与引当金」60億7百万円、「未払法人税等」53億36百万円、「短期借入金」35億91百万円および「長期借入金」30億円によるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ188億84百万円増加し、2,451億88百万円となりました。主な増加は、「親会社株主に帰属する中間純利益」275億14百万円および「為替換算調整勘定」6億17百万円であり、主な減少は、「剰余金の配当」93億98百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月13日決算発表時の業績予想を変更しておりません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	166,783	130,735
売掛金	33,341	14,934
商品及び製品	2,798	3,337
仕掛品	917	6,142
原材料及び貯蔵品	1,115	476
ゲームソフト仕掛品	49,209	62,542
その他	7,917	6,055
貸倒引当金	△0	△5
流動資産合計	262,082	224,219
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,745	10,676
その他(純額)	22,809	31,754
有形固定資産合計	33,554	42,431
無形固定資産	1,436	1,502
投資その他の資産		
その他	15,930	30,721
貸倒引当金	△23	△23
投資その他の資産合計	15,907	30,698
固定資産合計	50,899	74,632
資産合計	312,982	298,852
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,117	3,161
電子記録債務	2,505	3,333
短期借入金	3,591	—
未払法人税等	15,053	9,717
賞与引当金	9,480	3,472
繰延収益	20,590	6,497
その他	15,138	12,459
流動負債合計	69,478	38,642
固定負債		
長期借入金	3,000	—
退職給付に係る負債	4,758	4,904
株式給付引当金	3,169	3,751
株式報酬引当金	49	94
その他	6,222	6,271
固定負債合計	17,200	15,021
負債合計	86,678	53,664

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,239	33,239
資本剰余金	30,259	30,259
利益剰余金	204,233	222,348
自己株式	△49,963	△49,932
株主資本合計	217,768	235,914
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	8,602	9,220
退職給付に係る調整累計額	△222	△201
その他の包括利益累計額合計	8,380	9,018
株式引受権	155	254
非支配株主持分	—	—
純資産合計	226,303	245,188
負債純資産合計	312,982	298,852

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	56,402	81,152
売上原価	23,057	28,283
売上総利益	33,345	52,868
販売費及び一般管理費	12,618	13,535
営業利益	20,726	39,333
営業外収益		
受取利息	574	660
受取配当金	0	—
為替差益	376	—
その他	71	50
営業外収益合計	1,022	710
営業外費用		
支払利息	37	37
為替差損	—	727
社会貢献関連費用	※ 940	※ 2,450
その他	65	283
営業外費用合計	1,043	3,499
経常利益	20,706	36,543
特別利益		
固定資産売却益	143	0
特別利益合計	143	0
特別損失		
固定資産除売却損	2	176
特別損失合計	2	176
税金等調整前中間純利益	20,847	36,367
法人税等	5,571	8,853
中間純利益	15,275	27,514
非支配株主に帰属する中間純利益	—	—
親会社株主に帰属する中間純利益	15,275	27,514

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	15,275	27,514
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△2,309	617
退職給付に係る調整額	△14	20
その他の包括利益合計	△2,323	638
中間包括利益	12,952	28,152
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	12,952	28,152
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	20,847	36,367
減価償却費	2,143	2,406
のれん償却額	17	45
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	4
賞与引当金の増減額(△は減少)	△3,180	△3,411
株式給付引当金の増減額(△は減少)	553	581
株式報酬引当金の増減額(△は減少)	—	44
受取利息及び受取配当金	△574	△660
支払利息	37	37
為替差損益(△は益)	△236	△98
固定資産除売却損益(△は益)	△141	176
売上債権の増減額(△は増加)	11,350	18,435
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,845	△4,778
ゲームソフト仕掛品の増減額(△は増加)	△10,222	△13,332
仕入債務の増減額(△は減少)	2,221	858
繰延収益の増減額(△は減少)	△68	△14,113
その他	△2,433	△4,541
小計	18,467	18,020
利息及び配当金の受取額	586	607
利息の支払額	△35	△45
法人税等の支払額	△4,923	△14,057
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,094	4,525
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△16,430	△25,448
定期預金の払戻による収入	16,430	15,106
有形固定資産の取得による支出	△1,178	△9,234
有形固定資産の売却による収入	338	0
無形固定資産の取得による支出	△258	△361
投資有価証券の取得による支出	—	△15,021
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△154	—
その他	△240	△101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,493	△35,061
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△3,591
長期借入金の返済による支出	△313	△3,000
自己株式の取得による支出	△2	△0
配当金の支払額	△9,156	△9,369
非支配株主への配当金の支払額	—	△21
その他	△628	△717
財務活動によるキャッシュ・フロー	△10,099	△16,700
現金及び現金同等物に係る換算差額	△958	537
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,542	△46,699
現金及び現金同等物の期首残高	109,091	150,426
現金及び現金同等物の中間期末残高	110,634	103,726

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(中間連結損益計算書関係)

※ 社会貢献関連費用

前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

社会貢献関連費用の内訳は、万博関連費用が910百万円、寄付金が30百万円であります。

当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

社会貢献関連費用の内訳は、万博関連費用が2,443百万円、寄付金が7百万円であります。

(セグメント情報等の注記)

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算 書計上額 (注)3
	デジタル コンテンツ	アミューズ メント施設	アミューズ メント機器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	39,775	10,991	3,176	53,943	2,459	56,402	—	56,402
セグメント間の内部 売上高または振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	39,775	10,991	3,176	53,943	2,459	56,402	—	56,402
セグメント損益	20,640	1,667	1,587	23,895	1,195	25,091	△4,364	20,726

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターライセンス事業等を含んでおります。
2. セグメント損益の調整額△4,364百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△4,364百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	中間連結 損益計算 書計上額 (注)3
	デジタル コンテンツ	アミューズ メント施設	アミューズ メント機器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	49,852	12,450	15,191	77,494	3,657	81,152	—	81,152
セグメント間の内部 売上高または振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	49,852	12,450	15,191	77,494	3,657	81,152	—	81,152
セグメント損益	31,378	2,019	9,078	42,475	2,080	44,556	△5,223	39,333

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターライセンス事業等を含んでおります。
2. セグメント損益の調整額△5,223百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,223百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。